

しょうがいしゃ ちいき せいかつ しょうほうし



# 「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 10

# ぶるーむ.com

2011.1

ふゆごう  
冬号

じぶん せいかつたの  
～ 自分の生活楽しんでますか? ～



ことし が い  
今年はいちご狩りへ行けましたあ～!

## CONTENTS

P2 だいひょうあいさつ かつどうほうこく  
代表挨拶、活動報告

P4 じりつじざい だいにかい  
Iつ1「自立自在」-第二回-

P6 たかお  
高尾ヘルパーコラム

### ◆「ぶるーむ」の由来◆

英語のbloomをひらがな表記したものです。  
bloomには、「(花が)咲く」「(才能・事業などが)花開く」などの意味があります。この北九州の地で、自立生活の土壌をあらためておこすことから始め、それぞれの自立生活の種を植え、色とりどりの自立生活の花が咲きほこるという願いをこめました。

# しん ねん あいさつ 新年のご挨拶



みなさん 明けましておめでとうございます。

今年は卯年です。一年の抱負で「ウサギのように跳びはねて飛躍の年にしたい」という表現をよく聞きます。ぶる一むも4年目。そのような一年にしたいものですが、無理な背伸びはしないように気をつけたいと思います。会員、利用者みなさん、そしてスタッフとのコミュニケーションをいっそう大切にして、身近な自立支援を一つ一つ積み重ねていきたいと思ひます。そして、その実践が障害者の差別禁止条例につながるよう努力していきます。

だいひょう たなかゆうへい  
代表 田中雄平

## りじ じむきょくちょうしょうかい 理事・事務局長紹介！！

今年から、新しく理事に就任し同時に事務局長になりました、当事者スタッフのご紹介をします。

この方の存在はもう、各地・各方面で知れ渡っているかと思ひます。

顔が広いお方ですから(^) そろです・・・

あのさわやか、イケメン後郷法文さんです (#^.^#)

皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします☆

かつ どう ほう こく

# 活動報告

ねん  
2009年

がつ  
10月

5日 スタッフ研修

7日 ヘルパー研修

29日 会報「ぶる一む.com」vol.5 秋号完成！！

がつ  
11月

25日 小倉リハビリテーション学院出前講座① 3年生

がつ  
12月

7日 スタッフ研修

13日 ぶる一む総会

16日 小倉リハビリテーション学院出前講座② 2年生

18日 ぶる一む忘年会

2010年

1月

- 25日 スタッフ研修(高次脳機能障害の理解)
- 28日 会報「ぶる一む.com」 vol.6 冬号完成!
- 30日 ぶる一む新年会

2月

- 17~19日 全国自立生活センター協議会(JIL) 全国セミナー in 福岡

20日 よろず!!②

3月

- 12日 北九州市における障害者の人権を考える講演会
- 24日 B級 バスハイク ~ラピュタファームでいちご狩りの巻~

26日 よろず!!③“さくら”

27日 在宅褥瘡セミナー

4月

- 10・11日 イオン 幸 せの黄色いレシートキャンペーン 下半期贈呈式

19日 スタッフ研修 (ピアカンとILPIについて)

23日 よろず!!④

26日 会報「ぶる一む.com」 vol.7 春号完成!!

5月

11日 イオン 幸 せの黄色いレシートキャンペーン 参加

17日 スタッフ研修(アスペルガー症候群の理解)

21日 よろず!!⑤“漢(おとこ)祭り”

- 23~25日 第19回全国自立生活センター協議員総会 職員研修会in福岡

6月

8日 小倉リハビリテーション学院出前講師

18日 よろず!!⑥“歌♪”

28日 スタッフ研修(相談支援従事者①)

7月

- 7日 障がい者制度改革と人権を考える講演会に参加
- 8日 ヘルパー研修(自立生活センターについて)

16日 よろず!!⑦

26日 スタッフ研修(相談支援従事者②)

28日 会報「ぶる一む.com」 vol.8 夏号完成!!

31日 真夏の海の交流会 B級こんぱ

8月

7・8日 わっしょい百万夏祭り! ふれあい 広場出店

19日 ヘルパー研修 (障害者と介助者の付き合い方~ロールプレイで~)

20日 よろず!!⑧“花火”

30日 スタッフ研修(CILの相談事例検討)

9月

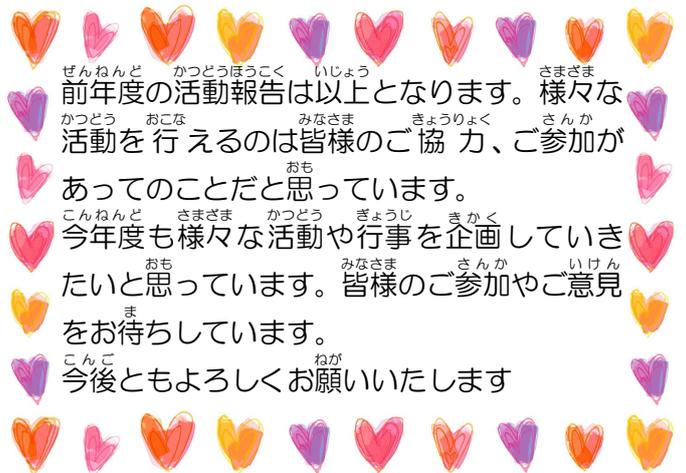
12日 障害のある人たちの人権についてのワークショップ

17日 よろず!!⑨“花火-again-”

19日 ピアカウンセリング講演会

27日 スタッフ研修(差別事例検討)

29日 障害のある人たちの人権についての講演


  
 前年度の活動報告は以上となります。様々な活動を行えるのは皆様のご協力、ご参加があつてのことだと思っています。今年度も様々な活動や行事を企画していきます。皆様のご参加やご意見をお待ちしております。今後ともよろしくお願いいたします



# 自立自在

JiRitsu-Jizai

## - 第二回 -

## ゴゴウノリフミ

頸椎損傷というのは、やっかいな障害だと思う。手足が動かないという、わかりやすい特徴だけではない。感覚がないとか体温調整ができないとか、排せつ機能に障害が残るとか、見た目にはわかりにくい特徴がある。

小学校なんかでは、これをわかりやすく説明するため、(感覚がないから)注射を打たれても痛くないよ、なんて話もする。そうすると、「すげえ!」「最強やん!」という反応になるわけだが、痛みがなくても血も出れば、骨も折れるわけで、もちろん、最強じゃない。(そもそも何と闘っているんだ?) なかには、「じゃあ、クマにお尻をかまれても痛くない?」なんて質問も出る始末で、もはや、クマにお尻をかまれるシチュエーションさえ思い浮かびません。

それでよくある質問に、「車いすに乗って一番困ることは?」ってのがある。これは簡単で、街中に段差や階段しかないときである。理由は行きたい場所に行けないから。実際、障害者の移動に関しては物理的バリアーが多い。JRはすべての駅や車両がバリアフリーになっているわけじゃないし、バスにだってスロープ付きのものは数が限られていて、どれがそうなのか、そのときまでわからないから非常に使い勝手が悪い。現代人の足である公共交通機関からしてこんなふうだから、それを前提にした社会のなかで、障害者が、障害のない人と同等の生活なんて送れるわけがないんであって、これは人権や差別の問題なのだ!

…なんて話は、もちろん、小学生にはしない。

で、たまにされて窮する質問に、「いままで一番辛かったことはなんですか?」ってのがある。中途障害の場合、障害者になったときだろう。なんせ、これまで当たり前でできていたことが、その日を境に一生できなくなるわけで、この事実を受け止めて、自分らしさを取り戻すには随分と時間がかかったように思う。自分自身と、自分の新たな人生(運命)について折り合いをつけなければならなかった。「障害の受容」なんて言われ方をするが、一生取り戻せない、失った機能を一つ一つ確認して、受け入れていく作業のなんと辛いことか。

それを踏まえて新たな人生を考えると、さらに絶望的な気分になった。そもそも障害者として生きることに、必要な情報をまったく持ち合わせていなかった。それだけならまだしも、障害者に対するイメージは、ひどく偏った、不正確で、良くないものだった。

いまにして思えば、それは社会全体に潜んで染み付いてるイメージそのものだが、それは医療従事者を含むいわゆる専門家と呼ばれる人たちからも払拭されることはなくむしろ、彼らの偏った言動で傷付けられることのほうが多かった。

家族や友人も励まそうと同じ障害を負いながら、口に筆を加えて絵や詩を書く障害者の話しを聞かせてくれたりもした。だがそんなものは類まれな才能と努力を持ち合わせた偉人の伝記を聞かされてるようなもので自分のような凡人には関係のない話だった。

そんな私を前向きに勇気づけてくれたのは、一人の障害者との出会いだった。彼は同じ重度の頸椎損傷者だった。海辺の近くの小さな家で一人暮らしをしていた。まだヘルパー制度は措置(※)の時代だったが、自分で介助者を雇いほとんど制度に頼らず知恵と工夫で自分らしい生活をしていた。とにかく、そのバイタリティに驚かされたし、こんな生き方があるのか！と衝撃を受けたのを憶えている。

当時、彼のような生活がしたいとは、正直思わなかったが彼の与えてくれる情報はとても有用で役に立つものだった。なにより、彼の生き方は障害に囚われずに生きていく具体的なイメージと勇気を与えてくれるものだった。

…なんて話もちろん、小学生にはできない。3分かそこらで話せる内容じゃないし大体、人生の挫折を経験したことの無い小学生がついてこれる話でもないだろう。

で、「障害者になってよかったことはなんですか？」って質問もある。大人からはあまり出てこない質問である。大人は、(機能)障害はないに越したことはない、障害のない状態が“ふつう”で、障害者は“ふつう”に満たない存在だという発想が根強い。何度も言うがこれは社会全体にあるイメージで、だから、障害者になって良いことなんてあるわけないし、こんな質問もはなから出てこない。そればかりか、障害者自身も障害を負って良いことなんてあるわけないと刷り込まれている場合もある。しかし実際は違う。障害があろうとなかろうとそれなりに良いことはあるはずで、そんな当たり前前のことも社会に蔓延るイメージに浸り続けるとわからなくなる。その意味でも柔軟なこどもならでは質問と言えなくもない。

ちなみに、私のする話は『テーブル付の電動車いすに座っているんで、立ち読み禁止の本屋さんでも怒られずに何時間でも本が読める』という愚にもつかない話でとても褒められた内容ではないが、まあそんなものです。

※措置…利用者と事業者との契約ではなく、行政権限により福祉サービスを提供すること



新年明けましておめでとうございます。昨年は色々な出来事があり、一つの節目になった年だ  
と思います。年が明けて最初の日々凡々は何を書こうか考えながら年末特番や正月番組を、ぼ  
ーっとしながら見ていたら、ゲーム革命たるドキュメンタリー番組が目に入ってきました。

その番組によると、次世代のゲームはコントローラを使わずに体で画面の中のキャラクター  
を動かす、つまり画面の中とプレイヤーの距離を近づけるものだそうです。なるほどと煎餅片手  
に見ていた訳ですが、ゲームを創る人達の情熱たるや素晴らしいものがありますね。

その中の若いスタッフはゲーム会社でゲームをした後、通勤中や自宅でもゲームをしていま  
した。彼曰く、本当にゲームが好きなんだと。この職業は正に俺の天職だと言っておられま  
した。それはそうだと納得しましたよ。ゲーム好きがゲーム会社に勤めて、ゲームの事だけを考  
える。

単純な動機でストレートな人生。見ていて清々くなりました。

百人が百人、自分の情熱を捧げられる物を見つけ、その職業についたらどんなに良いか  
と思います。書きたい事からそれでしたが、脳波によってコントロールする技術も進歩している  
そうです。これを使えば今まで電動車椅子を使えなかった人も操作ができるそうです。  
すべての人ではありませんが、また一つハンディキャップを補う技術の誕生です。

以前にも書きましたが、技術が進歩すれば、人は一つ怠慢になる。ハンディキャップを補う為  
に技術を開発するのではなく、この場合はゲームの副産物からこの脳波による車椅子を動かすシ  
ステムが生まれました。

ひと ほんのう たいまん のぞ けいざいてき はたら ひつよう たぶんじぶん はたら あそ ほう  
人の本能在怠慢を望むのなら、経済的に働く必要がなければ、多分自分も働かずに遊び呆けて  
いるでしょう。

ぎじゅつ さいしゅうだんかい ね こと でき しんたいてき  
技術の最終段階がもし寝たままですべての事が出来るようになることならば、身体的なハン  
ディキャップはかなり解消されるのではないかと思います。しかし自分はそんな事は望んでい  
ません。しかしながら身体的なハンディキャップを埋める発明が成されたときには、やはり素晴  
らしいと感動してしまいます。

ねが ぎじゅつ しんぽ ひと たいまん ため おお しんたいてき う  
願わくば技術の進歩が人の怠慢の為でなく、より多くの身体的ハンディキャップを埋めるべく  
発明が成されることを願って今年一発目の日々凡々とさせていただきます。  
みな ことし ねが  
皆さん今年もよろしくお祈いします。

きふ きぞう

りようしゃ もりさきけんとう きぞう  
利用者の森崎健斗さんより、『ワイヤレスマイクセット』を寄贈いただきました。  
ゆういぎ つか  
有意義に使わせていただきます。  
ありがとうございます。



がつ にち すい が で とうじつ さむ さむ さむ  
1月26日(水)にラピュタファームへいちご狩りへ出かけました。当日はとても寒く「寒い！寒  
い！」と外に出るたびに叫んでいたように思います。そんな中、参加して下さった皆さんはい  
ちごを山盛り摘んで持って帰って帰っていました。いちご狩りでは味見をさせていただいたので大きい  
いちごから取って食べちゃいました。甘くてとてもおいしかったです(^\_^)

このラピュタファームではヤギも飼育されていました。機会があれば行ってみてください！  
さむ なかさんか みな  
寒い中参加して下さった皆さん、ありがとうございました！



ここにヤギが飼育されて  
いましたあ(^.^)のんびりと  
くつろいでいましたねえ。  
うらやましいです。





はや  
早いもので、「ぶるーむ. Com」発行10号目になります。

まいかい なや いっそうじゅうじつ ないよう  
毎回、ネタに悩まされていますが(-\_-)、より一層充実した内容を  
とど おも  
お届けできたらなあ…とっております(#^.^#)



【 (な) 】

## ■ロゴについて■



この3つが繋がったチューリップには、3J=「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

## ■会員募集■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」みずからが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が重要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

自立生活センターぶるーむはこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【郵便振替】口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ  
記号番号：17490 35083341

編集人  
連絡先

NPO法人 自立生活センターぶるーむ

〒803-0818

福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F

TEL 093-562-5431

FAX 093-583-3257

E-Mail [cil-bloom@nifty.com](mailto:cil-bloom@nifty.com)

URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円